

<事務局 考察>

現在は、福祉まつり、まちづくりフェア以外、年齢や関係者で参加条件が限定されている活動が多いが

・ 今後は、幅広い世代交流を計ることが出来たり、活動団体の繋がりを増やしていくと共に、住民に広く活動を知ってもらいやり方を望む回答が多い。

(幅広い世代交流には、児童や高齢者が触れ合うことで、社会性を身につけることを狙いとした意味の回答もあった)

(協働のまちづくりネットワークは具体性があり、市民団体活動や地元情報発信の拠点とし、まちづくり活動を認知してもらいたいという強い思いがある。)

・ また、多国籍の方にも参加してもらい、多文化・世代間交流の機会を作るようなイベントがしたいとの回答もあった。

具体的に使用したい場所は、広いスペースを使いたいという声が多く、コミュニティスペースを挙げている団体が多い。

・ コミュニティスペースなどでオープンに活動すること自体が、情報発信や交流、活動の広がりにつながると捉えられている。今後、スペースに求められる機能について検討していきたい。

【委員長 総括】

団体の多くがより幅広い町民に活動を知ってもらいたい、あるいは参加者を増やしたいと思っていることがわかった。

藤久保地域拠点が複合施設となることによって、目的別の個別施設よりも幅広い人たちへの周知、さらに新しい人たちの参加を促すことを通じて、町内の市民活動が活発になることが期待されている。

この地域拠点には、活動の情報が共有され、さらに各々の活動が見え、交流を促進するような空間配置、機能になることが望まれる。